

## 施策3

## 生物多様性を保全します

■生物多様性の認知度 → p.99

指標

■生物多様性シンポジウム

指標

平成30(2018)年度

第2回	とき: 平成30年11月24日 (土)	○取組報告「私たちが守りたい生きものたち」 大塚之稔氏(日本野鳥の会岐阜 代表) 「地域の自然の宝箱 ホットスポット もっと知って、みんなで守ろう」 肥後睦輝氏(岐阜大学地域科学部 教授) 「生物多様性を踏まえた産業づくりに向けて」 伊藤栄一氏(NPO法人森のなりわい研究所 代表理事・所長) ※「岐阜市の外来種問題の現状」は都合により中止
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○トークセッション「生物多様性に関わる市民と行政の役割」 コーディネーター: 田中俊弘氏(岐阜生物多様性研究会 代表) パネラー: 大塚之稔氏・向井貴彦氏・肥後睦輝氏・伊藤栄一氏  ○取り組みのまとめ「岐阜市における生物多様性の取り組み」 野村典博氏(NPO法人森と水辺の技術研究会 理事長)

※第1回生物多様性シンポジウムは、台風12号・24号の接近のため中止

令和元(2019)年度

第1回	とき: 令和元年8月4日(日)	○基調講演「増える鳥 減る鳥」 大塚之稔氏(日本野鳥の会 岐阜 代表) 「岐阜の魅力ある植物」 可児美紀氏(岐阜県博物館 自然係) 「希少動物を守る動物園の真の役割」 楠田哲士氏(岐阜大学 応用生物科学部 准教授)
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○トークセッション「みんなで学ぼう 岐阜の自然」 登壇者: 大塚之稔氏・可児美紀氏・楠田哲士氏
第2回	とき: 令和元年12月8日(日)	○活動発表「守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ」 山県市立富岡小学校 生物部 「守れ！ふるさとのヤマトサンショウウオ」 岐阜県立岐阜高等学校自然科学部 生物班
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○トークセッション「きいてよ！！私たちの想い」 コーディネーター: 伊藤栄一氏(岐阜市自然環境保全推進委員会 委員長) 登壇者: 山県市立富岡小学校生物部、岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班

※令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止

令和3(2021)年度

第1回	とき: 令和3年11月13日(土)	○講演1「ミツバチが育む生物多様性～蜂との時間が教えてくれたこと～」 安藤美咲氏(特定非営利活動法人 さとはち 副理事長)
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○講演2「ミツバチが育む生物多様性」 中村源次郎氏(公益財団法人みつばちの家 理事長)  ○トークセッション 安藤美咲氏、中村源次郎氏 コーディネーター: 野村典博氏

令和4(2022)年度

第1回	とき: 令和4年8月6日(土)	○講演1「みんなのまわりの身近な動物たち」 ぎふ哺乳動物研究会 梶浦敬一氏
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○講演2「植物の観察会」 岐阜県植物研究会 近藤慎一氏  ○講演3「みんなのまわりの身近な植物たち」 岐阜県植物研究会 近藤慎一氏
第2回	とき: 令和5年1月29日(日)	○講演1「人と自然の共同作業が創り出した大洞の里山」 岐阜大学 社会システム経営学環 教授 肥後 睦輝氏
	場所: みんなの森ぎふ メディアコスモス かんがえるスタジオ	○講演2「ホットスポット金華山の魅力」 岐阜県植物研究会 近藤 慎一氏  ○講演3「三輪地域の希少な軟体動物」 愛知みずほ大学 人間科学部 准教授 川瀬 基弘氏

■多自然川づくりにより整備された河川の延長

指標

区分	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
市内総延長距離(m)	3,402	3,459	3,574	3,698	3,918

■レッドリスト掲載種数

カテゴリー	分類	植物	動物							合計	
			哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	貝類		甲殻類
絶滅		1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
野生絶滅		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
絶滅のおそれのある種	絶滅危惧Ⅰ類	50	2	7	0	5	7	3	13	0	87
	絶滅危惧Ⅱ類	75	0	8	1	1	5	8	12	1	111
準絶滅危惧		109	8	9	1	2	8	8	11	2	158
情報不足		33	0	0	4	3	6	8	6	1	61
合計		268	10	24	6	11	27	28	42	4	420

■レッドリスト カテゴリー定義

区分	基本理念	定性的要件
絶滅	市内では、すでに絶滅したと考えられる種。	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、市内ではすでに絶滅したと考えられる種。
野生絶滅	市内において、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に市内に生育・生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、市内において本来の自然の生育・生息地ではすでに絶滅したと考えられる種。
絶滅危惧Ⅰ類	市内において、絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 ①既知の全ての個体群で、危機的水準にまで個体数が減少している。 ②既知の全ての生息地で、生育・生息要件が著しく悪化している。 ③既知の全ての個体群でその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧を受けている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。 ⑤生育・生息地面積や成熟個体数について、継続的な減少が予測されるあるいは、極度の減少が見られる。 ⑥それほど遠くない過去(約30年～50年)の生息記録以降確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類	市内において、絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生育・生息地で生育・生息要件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧あるいは被食圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。
準絶滅危惧	市内において、存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	市内において次のいずれかに該当する種。 生息状況の推移からみて、種の存続への圧迫が強まっていると判断されているもの。具体的には分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ①個体数が減少している。 ②生育・生息条件が悪化している。 ③過度の捕獲・採取圧あるいは被食圧による圧迫を受けている。 ④交雑可能な別種、または生態的に優越すると考えられる別種が侵入している。

## ■ブルーリスト掲載種数

分類 カテゴリー	植物	動物								合計
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	貝類	甲殻類	
侵入ランクA	38	7	2	2	1	8	7	10	2	77
侵入ランクB	51	1	0	1	0	4	15	7	0	79
侵入ランクC	77	0	2	6	0	7	22	6	0	120
合計	166	8	4	9	1	19	44	23	2	276

## ■ブルーリスト カテゴリー定義

カテゴリー	内容
侵入ランクA	市内に広範囲に分布・定着しているもの。
侵入ランクB	市内への分布は局所的であるもの。
侵入ランクC	市内への侵入は初期段階もしくは未定着のもの。

## ■コウホネ類生育環境調査（令和4年度）

### ◆達目湖

項目／採水月日	4月13日	6月1日	8月3日	10月12日	12月7日	2月1日	年平均
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
気温(°C)	26.0	27.5	33.0	22.5	11.0	3.0	
水温(°C)	14.0	17.5	20.5	17.0	15.8	13.5	
pH	5.7	5.8	6.1	5.7	5.8	5.5	5.8
COD(mg/L)	1.1	1.0	1.4	1.1	0.8	0.7	1.0
BOD(mg/L)	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5
SS(mg/L)	1	2	2	3	4	5	3
全窒素(mg/L)	0.30	0.34	0.34	0.34	0.39	0.29	0.33
全リン(mg/L)	0.014	0.012	0.008	0.015	0.008	0.012	0.012
DO(mg/L)	9.1	9.0	8.5	8.8	8.5	9.6	8.9
クロロフィルa(µg/L)	—	—	—	—	—	—	—

### ◆第2於母ヶ池

項目／採水月日	4月13日	6月1日	8月高水位採水不能	10月12日	12月7日	2月1日	年平均
天候	晴れ	晴れ	—	晴れ	晴れ	晴れ	
気温(°C)	26.0	28.0	—	24.0	11.1	4.5	
水温(°C)	15.0	17.0	—	21.0	16.2	12.0	
pH	5.1	5.5	—	5.2	5.6	5.4	5.4
COD(mg/L)	0.6	0.7	—	1.0	2.4	0.5	1.0
BOD(mg/L)	< 0.5	< 0.5	—	< 0.5	0.7	< 0.5	< 0.5
SS(mg/L)	< 1	< 1	—	1	9	4	3
全窒素(mg/L)	4.4	5.6	—	3.1	3.4	1.9	3.7
全リン(mg/L)	0.025	0.029	—	0.049	0.028	0.016	0.029
DO(mg/L)	7.8	7.6	—	6.7	7.3	6.3	7.1
クロロフィルa(µg/L)	—	< 1	—	< 1	—	< 1	< 1

※年平均算出において、定量下限値未満の値（「< 0.5」など）については0とした。

## ■貴重野生動植物の保全

条例指定種	年月	取組内容等
ヒメコウホネ	平成4(1992)年	植物研究家の故・成瀬亮司氏が達目洞に自生しているヒメコウホネを発見
	平成6(1994)年	岐阜県知事宛に達目洞で計画されている「岐阜環状線計画変更」の意見書提出
	平成11(1999)年～	有識者・岐阜県・岐阜市職員・建設関係業者・地元農家と一緒にヒメコウホネの移植、除草、川ざらえ等の保全活動の開始
	平成14(2002)年5月	達目洞のヒメコウホネ等を保護するため「達目洞自然の会」が発足
	平成16(2004)年4月	「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に基づき「貴重野生動植物種」に指定し、保全を図る
	平成19(2007)年3月	保全体制を強化するため、「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に基づき「特別保全地区」に指定(達目洞ヒメコウホネ特別保全地区)
ヤマトサンショウウオ	平成8(1996)年3月	岐阜県立岐阜高等学校の高木雅紀教諭が発見
	平成16(2004)年4月	「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に基づき「貴重野生動植物種」に指定し、保全を図る
	平成17(2005)年3月～	産卵場所の整備開始
	平成18(2006)年2-4月～	岐阜県立岐阜高等学校とアクア・トぎふにて人工飼育開始
	平成19(2007)年7月	第1回カスミサンショウウオ保全対策検討会を開催
	平成20(2008)年6月～	現地放流開始
	平成23(2011)年6月～	岐阜大学保全池への放流(域外保全)開始
ホトケドジョウ	平成12(2000)年	3月発行の「自然環境実態調査」の結果において、市内生息数の減少と保全の必要性を記載
	平成15(2003)年7月	大洞地区にて分布調査を実施
	平成16(2004)年4月	「岐阜市自然環境の保全に関する条例」に基づき「貴重野生動植物種」に指定し、保全を図る
	平成17(2005)年～	「貴重野生動植物種調査」として毎年市内32カ所の生息地を調査

※2004年4月施行の「岐阜市自然環境の保全に関する条例」により貴重野生動植物種に指定されると、生きている個体の捕獲、採取、殺傷又は損傷が原則的に禁止され、岐阜市にもそれらの種の生息・生育状況を定期的に調査する義務が発生するなど、保護が図られる。

※カスミサンショウウオは2019年6月4日に学名・和名の指定名称がヤマトサンショウウオに変更された。

## ■自然環境保全活動団体数

指標

No.	団体名	活動内容
1	達目洞自然の会	達目洞の逆川に生育するヒメコウホネをシンボルとして、達目洞の自然環境保全を行う。
2	十時会	金華山の保全、登山道整備、森林パトロール、清掃活動などを行う。
3	金華山サポーターズ	金華山の保全、調査研究、環境学習を実施し、金華山を後世に伝えるとともに、様々な機関、団体との連携を図る。
4	ボランティア「風と土の会」	環境教育、竹林整備、竹炭づくりなどを行い、自然と人が共生できる循環型社会づくりなどに寄与する。
5	NPO法人ぎふし森守クラブ	森林の重要性を認識するとともに、森林の整備、保全、ふれあい活動などを通して豊かな環境づくりを行う。
6	NPO法人長良川環境レンジャー協会	河川環境調査・保全活動及び流域小中学校への環境教育などの啓発活動を行う。
7	日本野鳥の会 岐阜	自然と人が共生できる環境づくりを目的に、野鳥を中心とした自然観察、調査研究、自然保護活動を行う。
8	NPO法人森と水辺の技術研究会	「森と水辺」、「水源域と下流域」、「流域全体」をつなぐ技術の発展と普及・啓発に資する研究、事業を行う。
9	NPO法人エヌエスネット	子どもたちに、山・森・川をフィールドにした日帰りまたは宿泊を伴う長期キャンプなどの自然体験を提供する。
10	NPO法人ふれあいの森自然学校	「ながら川ふれあいの森」を主なフィールドとし、観察会・ネイチャーゲームなど自然の魅力に触れ合うことができる自然体験を提供する。
11	大洞の里山つくろう会	地域の里山の再生、遊歩道整備などを通じて住民交流の場の整備と住民交流事業の実施などを行う。

※岐阜市自然環境の保全に関する条例第21条の規定により承認された団体

■岐阜市自然環境アドバイザー名簿

令和5年3月末現在

No.	氏名	所属等	専門分野
1	池谷 幸樹	岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ 館長	水生生物
2	伊藤 栄一	NPO法人森のなりわい研究所 代表理事・所長	環境学習
3	江崎 敏之	岐阜県哺乳動物調査研究会	哺乳類
4	大塚 英樹	岐阜県植物研究会	植物
5	大塚 之稔	日本野鳥の会 岐阜 顧問	鳥類
6	大原 健一	岐阜県水産研究所 資源増殖部	水生生物
7	梶浦 敬一	ぎふ哺乳動物研究会、一般財団法人自然学総合研究所	哺乳類
8	角野 康郎	神戸大学大学院 理学研究科 教授	植物
9	川上 紳一	岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授	環境学習
10	川瀬 基弘	愛知みずほ大学 人間科学部 准教授	水生生物
11	桑原 久男	日本野鳥の会 岐阜	鳥類
12	後藤 常明	環境省希少野生動植物種保存推進員、日本貝類学会	水生生物
13	近藤 慎一	岐阜県植物研究会	植物
14	西條 好迪	一般財団法人 自然学総合研究所 所長	植物
15	志賀 隆	新潟大学 教育学部 准教授	植物
16	柴田 甫彦	環境市民ネットワークぎふ 代表	市民活動
17	千藤 克彦	岐阜市立長森北小学校 教頭	水生生物
18	高井 泰	岐阜県昆虫分布研究会	昆虫類
19	高木 雅紀	岐阜県立大垣北高等学校教諭	両生類
20	田上 正隆	岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トぎふ 展示飼育部	両生類
21	田中 俊弘	岐阜薬科大学 名誉教授	自然環境・生物多様性
22	田中 正弘	岐阜県昆虫分布研究会	昆虫類
23	谷口 義則	名城大学 人間学部 教授	水生生物
24	中島 和典	岐阜県昆虫分布研究会	昆虫類
25	西川 完途	京都大学大学院 人間・環境学研究科 准教授	両生類
26	野平 照雄	岐阜県昆虫分布研究会、一般財団法人自然学総合研究所	昆虫類
27	肥後 睦輝	岐阜大学 社会システム経営学環 教授	植物
28	平田 亨	NPO法人森と水辺の技術研究会 理事	市民活動
29	福井 強志	日本野鳥の会 岐阜 事務局長	鳥類
30	福田 英治	岐阜県自然観察指導員	環境学習
31	船越 進太郎	岐阜県昆虫分布研究会、日本昆虫学会	昆虫類
32	松井 正文	京都大学 名誉教授	両生類
33	水谷 治雄	岐阜県昆虫同好会	昆虫類
34	向井 貴彦	岐阜大学 地域科学部 教授	水生生物
35	矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	爬虫類
36	山本 輝正	県立土岐紅陵高等学校教諭、コウモリの会 会長	哺乳類